自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2008 年 6 月

No. 47

～1冊の本が人生を変える～

発行　／　アジア・アフリカと共に歩む会

Together with Africa and Asia Association(TAAA)

2008 年 6 月までの報告と予定

- ■ 2月　ELETにて本の仕分け
- ■ 2月　学校菜園プロジェクト教師研修
- ■ 2月　ソエトへ本を送付
- ■ 3月　リンポポ州JVCプロジェクトを視察
- ■ 3月～4月　日本より南アを訪問
- ■ 4月　移動図書館車をELETへ送る
- ■ 4月　ンドウェドウェ学校訪問
- ■ 5月　アフリカン・フェスタ2008に出展
- ■ 7月　TAAA南ア帰国報告会

内容

菜園プロジェクトと図書普及活動の成果と問題点　（平林薫）・・２
アフリカン・フェスタ２００８　（佐々木香世子/千葉愁子）・・・・・５
南ア・プロジェクト視察訪問　報告書　（久我祐子）・・・・・・・・・6
ＴＡＡＡと私　第８回（野田千香子）・・・・・・・・・・・・・・・・8
学習院高等科でＴＡＡＡ活動紹介（米山周作）・・・・・・・・・・・９
2007 年度決算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
主な活動・ルイボスティ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
寄付・会費・本などを下さった方々・・・・・・・・・・・・・・・・１２

畑から今日の給食用にピーマンを取ってきたンジマンデ先生（タタクサ小）

菜園プロジェクトと図書普及活動の成果と問題点

平林　薫　（TAAA南ア事務所代表）

キャベツに虫、ピーマンは青々と

JICA草の根技術支援事業の“学校菜園プロジェクト”が開始されてから、そろそろ１年になろうとしている。年間を通しての気温や雨など自然環境や、学校の休暇のタイミングなどが菜園活動に与える影響についてはっきりとしてきた。年末年始の収穫後、２月中旬から下旬にかけて植えつけた苗の中で、葉物キャベツ、ホウレン草が暑さや虫害のためにダメージを受けた学校があった。夏は雨が十分に降っていいのだが、日中の日差しがとても強いので、ネットなどで日よけをすることや、虫に十分注意すること、野菜の種類を考慮することなどの対策を取る必要があることがわかった。今回の栽培ではどの学校もピーマンが青々とよくできて収穫を迎えている。

JVCのパーマカルチャー農法の研修（リンポポ州にて）

JVCの自然農法から学ぶ

３月初旬にJICAプレトリア事務所の主催でJVC（日本国際ボランティアセンター）がリンポポ州で行っているコミュニティー農業プロジェクトの視察が行われた。経験交流ということで、学校菜園プロジェクトについても簡単な発表を行った。リンポポ州のプロジェクトでは、“パーマカルチャー”というオーガニック・自然農法が行われている。農薬や化学肥料を一切使わず、手に入る資材を使って行われる“持続可能な”農業で、特に地方のコミュニティーには最適であり、何よりも栄養のある、安全な作物がとれることが大きなポイントである。同じ作物を同じ場所にまとめて植えるのではなく、一列ずつ違う作物を植えることや、同時に植えて同時に収穫するのではなく、常に何かの作物を作り続けることなどは、学校菜園プロジェクトにも取り入れていきたいと思う。ただKZN州は湿度が高いことから虫害が多く、特に葉物はどうしても多少の農薬散布が必要になってしまう。菜園プロジェクト参加校の代表として視察に同行したズバネ小のンゾベ教師が、４月３０日に行われた教師対象の研修で視察の報告をした。その際に“土地を肥沃にするためのミミズの利用”について、直筆の絵も交えた報告書を参加者に配布したところ、いつも“土がよくないので収穫が思わしくない”と嘆いているムチャトゥ小では早速ミミズを使って土地の改善が試みられている。次回は、是非リンポポ州のプロジェクト参加者に菜園プロジェクトを視察していただきたいと思う。

農業指導：種まき、移植、農薬使用の注意点

これまで順調に活動が行われているエマクルセニ小でも、３月１８日に訪問した際、のエルトン農業指導員が“キャベツが危ないな”と言って芯の部分を見るとやはり虫にやられていた。そのままではすべてのキャベツに広がる可能性があるというので、早速農薬を手配して散布した。その後順調に生育を、収穫迎えようとしている。農薬については取り扱いの注意を十分に指導しており、先生方や生徒たちも“ポイズン（毒）”と呼んで、散布する量や使用後の手洗いなどに気をつけている。やはり活動が順調なズバネ小では、残念ながら今回は虫害でキャベツが全滅してしまった。農業指導員は適当な農薬の散布の仕方や、同じ作物を同じ場所に何度も植えないことなどを指導した。現在、各校に玉ネギ、赤カブ、ニンジン、ホウレン草、青豆の種を配布し、種まきが始まっている。これまでは苗を中心に配布してきたが、今後自分たちで種を取ったり、市販の種を購入したり蒔いたりすることで菜園を継続させていく努力をしなければならない。そのため、今回の教師対象の研修では、Sustainability をテーマに話し合いを行った。農業指導員が、種を蒔き、苗になったら移植するやり方の指導を行い、その後、種の配布時に菜園で実地指導を行っている。

収穫物を給食：～“仕事に責任を持つ”ことを学ぶ～

今回の研修では、各校からの活動の進捗状況や、問題点などを発表してもらった。欠席３校を除いた 17 校の担当教師たちから様々な意見が出た。収穫については、学校給食に利用したり、教師やコミュニティーの人々に販売して学校の資金にすることだけでなく、生徒の中で特に貧しく厳しい生活を強いられている家庭に配布したりもしている。昨今の食料品価格の高騰からも、プロジェクトでの収穫は大きな支援になっているとの声が上がった。数校では、敷地を学年ごとに分け、それぞれの学年が責任を持って世話をするという方法を取り入れている。下の学年の生徒たちも水汲みをしたり、草取りをしたりで“自分たちの仕事に責任を持つ”ことを学んでいるようだ。

農業指導員が農薬の使い方や散布の仕方を指導

余分な葉を取ったり、周りの土をならす生徒

課題：コミュニティーの協力/意識改革が必要

問題点については、コミュニティーメンバーからのサポートを得ることが難しいという意見が圧倒的に多く、１７校のうち７校のみが“常時サポートがある”と答えていた。中には何度も SGB(スクール・ガヴァニング・ボディ／PTA のようなもの)とミーティングを持ち依頼をしたが、“賃金がもらえなければ働かない”と拒否されたという。“収穫物を支給するということではだめなのか”と尋ねると、“もちろんそのような形で依頼をしたが現金でなければだめと言われた”とあきらめの様子であった。地域には農業が定着しておらず、畑を耕して収穫を得ることの有効性が理解されていない。こうなると政府主導の大規模なコミュニティー農業プロジェクトなどによって人々の意識改革をしなければ解決できないのではないか、と思えてきた。ただ、このような学校では休暇中の畑の世話や水遣りは生徒たちが率先してやってくれているという。生徒たちだって立派なコミュニティーメンバーだ。彼らの活動が少しずつ大人たちの意識を変えていく事だって可能なはずである。

コミュニティーの人たちとのミーティングを開催予定

活動への参加校を決定する際の条件として、学校の周囲にしっかりとしたフェンスが張られていることを第一に挙げたのだが、それでも、どこからか忍び込まれて収穫物を盗まれた学校があった。担当教師は“手伝ってくれもしないくせに収穫物を見ると盗みに来るんだから”と怒りをあらわにしていた。その後、学校では菜園の周りにもフェンスを張り巡らせた。参加校の中にはコミュニティーメンバーのサポートなしで、教師たちの力でプロジェクトも学校運営もうまく行っている学校もある。しかし、コミュニティーメンバーが積極的な学校は、もちろん菜園活動も順調に進んでいるし、たとえ設備の乏しい学校であっても環境がよく、何となく雰囲気が明るい。何より、生徒たちの態度がいいことなどからも、学校は教師と生徒だけではなく、コミュニティーの人々と共に作り上げていくものだと感じる。数校からプロジェクトマネージャーや農業指導員も交えてミーティングを持ちたいと依頼があり、早急に開催したいと考えている。

モンテベロ小：常にコミュニティの人たちが菜園の世話をしている

絵のコンテスト企画

JICA/TAAA からは各校に画用紙やクレヨンなど文房具を配布し、菜園活動をテーマにした絵などアートのコンテストを行うことを発表した。８月末から９月にかけて作品を提出してもらう予定。どんな作品が集まるか、今から楽しみだ。

エマクルセニ小中学校に教科書と参考書を配布

本の寄贈：学校菜園 20 校、ソエトの NGO、ケープの高校などへ

本の寄贈については、まず、到着した箱から小学校用の本をピックアップし、プロジェクト参加２０校に４箱ずつ配布した。デダ小の教師からは、“いい本ばかりで早速授業に使っている”との言葉をもらった。コミュニティーの成人への英語教育も行われているとのことで、テキスト等も選んで寄贈した。ダリボ小でも“低学年に絵本がとてもよく、活用している”との声があった。また、研修で担当教師たちに小説やノンフィクションを配布したのも喜ばれた。ソウェトの NGO, SOMOHO へ３６箱、ケープタウンの黒人居住区カエリチャの高校へ５箱、JVC 南ア事務所へ 9 個また、KZN 州教育省に寄贈の移動図書館車のベースの１つとなる、ハイフラッツ・リソースセンターへも５箱寄贈した。

図書室開設支援：各校へ 3 台の本棚を

数校だけに立派な棚を寄贈するのでは不公平になると考え、20 校のうち、すでに図書室のある 1 校を除いた 19 校に 1 台から 3 台(各 5 段)の本棚を設置した。本棚はスチール製のつなげていく仕様のもので、今後また支援金が集められたり、学校側で資金に余裕ができたりした場合に注文することができる。今回、3 台の本棚を寄贈したタタクサ小のパポ校長からは“夢がかなった。本当にありがとう”と感謝の言葉をもらった。もちろん、図書室としての機能を果たすには、まだまだ本棚も本自体も十分に揃えなければならないし、各校で図書担当教師の配置や本の分類、管理の仕方を学ぶ必要もある。しかし、資金もノウハウも乏しく、“どこから始めたらいいかわからない”といったこれらの学校にとって、本と本棚の寄贈によって図書活動への第一歩を踏み出すことができたのではないかと思う。また、ELET に寄贈した移動図書館車も近々走り始めるので、他の地域へも本の配布や情報提供を行っていきたいと考えている。今後も子供たちが本にアクセスすることができ、本から学び、読書を楽しむことができるようになるまで支援を続けていきたいと思っている。

教師研修でペーパーバックやノンフィクションを配って喜ばれる

ズバネ小のンゾベ先生とシママネ校長　TAAA から寄贈の本棚

ヴレラ小で。カラフルな算数セットを手にする生徒たち

アフリカン・フェスタ2008

左から山下、マランガさん、丸岡、野田、中野さん　TAAA ブース前で

開場前の横浜赤レンガ倉庫の広場。2 日間の人出は 20 万人。

5月17日参加　　佐々木　香世子

今年は横浜赤レンガ倉庫。色んな国が日本との玄関口とした横浜。世界につながる海の風を感じられるすてきな場所！天気もアフリカっぽく晴天！！TAAA の場所もいいところ。

行きの電車からむかえ側にフェスタ参加者のアフリカ楽器と衣装を着たグループと出会え、駅からおしゃべりしながら会場に一緒に。（お陰で迷わず！）

フェスタは12時からだけど、もう準備段階の10時台からお客さんがたくさん。いいお天気でビールを飲みながらのお客さんも。（本当にビール日和♪）

そこへやさしそうで大きくてはにかんだ感じの方がブース近くにいらっしゃった。
マランガさん♪インターナショナルスクールの物理の先生で今まで TAAA にご尽力の方。
記念撮影。18日にステージされる有名人♪（パンフにもお顔写真のってて）

南アのママ製のキラキラと輝くビーズアクセサリーを参加スタッフでセールス。これが本当におもしろかった！お天気すぎてビーズも熱くなり・・太陽の光をうけてキラキラ♪とある超セールス上手なスタッフ（Y さん）とも充実した時間をすごせました。あっお昼には各国の様々なお料理を頂きました！私超食いしん坊なので各国のお料理ブースを撮影、ヒアリングまでしちゃいました。うん、フェスタ楽しんでしまいました♪
（備品等運んだり、ビーズのご用意してくださった方々に感謝します。）

5 月 17･18 日参加　　千葉　愁子

久しぶりに顔を出した TAAA の活動。新しくお会いする方が大半でしたが、アフリカン・フェスタでは他の NGO 関係者や青年海外協力隊出身者等、懐かしい顔がたくさん。やっぱりいいな～。天気もよく、アフリカの音楽が会場に響き、心が開放されるのを感じました。

これまで日比谷で開催されていた時とは違い、今回は、観光やおしゃれな買い物を目的に赤レンガに来たらたまたまアフリカンフェスタがやっていた！という感じの人達がたくさんいて、こうやって少しずつアフリカへの理解が社会で広まっていくといいなと思いました。これもアフリカ開発会議を横浜で行う意義の一つですね。

サジ・マランガさんの親指ピアノのライブも素敵でした。躍動感あふれる音楽とともにマランガさんが踊りながらステージに登場**（写真：上）**。いつも穏やかなマランガさんですが、こんなアクティブな一面もあったのかと、思わず野田さんと顔を見合わせました。親指ピアノの演奏ももちろん素敵でしたが、一番心に響いたのはショショローザの歌。南アフリカの鉱山労働者が仕事の合間に歌った歌で、現在は南アフリカのサッカーやラグビーの公式応援歌になっています。マランガさんの低く伸びやかな歌声を聴いて、昔、南アフリカに住んでいた時に、現地の友人とこの歌を歌った時の様々な思い出が蘇りました。

これからも細く長くアフリカと繋がっていこうと気持ちを新たにした二日間でした。

2008年3月～4月

南ア・プロジェクト視察訪問　報告書

久我　祐子

左から、お母さん・ゾクトゥーラ君・野田・久我

視察訪問者：　野田千香子　　久我祐子
訪問期間：　2008年3月27日～　4月1日
訪問場所：　南アフリカ共和国クワズールーナタール州(KZN州と表記)
1. NGO　ELET（Environment and Language Education Trust）　**2.** イナンダ地域、ンドウェドウェ地域の学校4校　**3.** サウスコースト　ガマラケ地域　NGOシヤツツカ・コミュニティ・デベロプメント　**4.** イナンダ地域ゾクトゥーラ君（故ムルンギシ君の弟）の実家と祖母の家　**5.** KZN州教育省ELITS　**6.** 農業省とミーティング　**7.** TAAA 南アフリカメンバーとの会合（中地さん宅）　**8.** JICA学校菜園プロジェクト農業指導員エルトン・マヴァンドラとのミーティング　**9.** 19校に寄贈する本棚チェック

3月27日（木）　ELET訪問

＊　ELET代表マーヴィンとの話し合い

<u>JICA学校菜園プロジェクトについて</u>

プロジェクトは軌道にのり、日本でも高く評価されていることなどを伝える。

<u>移動図書館車の使い方</u>

今度到着する移動図書館車に関し、TAAA 側は運転費用の資金提供は約束できないことを伝える。 最初は、本を段ボールに詰めて学校に配布するなど、コストのかからない貸出方法で車を有効利用していくことを確認し合う。

<u>ELETの今後のプロジェクト</u>

アロマオイル用植物を育てるプロジェクトを着手。“農業”は注目されている分野でファンドを獲得しやすいとのこと。

＊　ELETスタッフとの会合・ランチ

マーヴィンとJICAプロジェクトの農業指導者であるエルトン・マブンドラを含め8名のELETスタッフ、平林さん、野田さん、久我でランチ。会の紹介、自己紹介など。ランチの後、エルトンと明日以降のスケジュールを確認。

3月28日（金）　学校訪問

●　マンドシ校　イナンダ地域　グレードR　～9（プレスクールから中3）生徒数380名（2007年度）　ズールー校長先生（女性）

＊　リソースセンターには、学習院高等科寄贈による立派な本棚があった。古い型のコンピューターも数台おかれていた。ムルンギシ基金で購入した二人用の机25台を見せてもらう。椅子は別のファンドから購入する予定とのこと。

＊　マンドシ校は、KZN教育省が唯一定期的に運行する移動図書館車プロジェクトの対象校。州政府農業省のプロジェクトである、イナンダ・クワマシュ菜園プロジェクト（Inkプロジェクト）の対象校で校庭に小さな畑があった。

＊　評判がよいので、高3（グレード　12）までに拡大する予定。州の教育省には頼れないとのこと。パワフルでやり手のズールー校長は既に地元の制服会社からファンドをもらい2教室を立てている。

＊　生徒の多くは経済的に厳しい家庭環境にある。60%が片親、30%が祖父母に、10%が両親に育てられている。

＊　授業はプレスクールから英語で行っている。母語であるズールー語は、科目として3年生から始まる。ズールー先生は、生徒達の就職などの将来のために英語の大切さを強調していた。TAAA　の「ぐりとぐら」の計画を話すと、ズールー語の絵本よりも英語の絵本が欲しい、といわれた。

●　エマクルセニ小学校　ンドウェドウェ地域　グレード5～7（小学校5年生～中学2年生）ンゴベセ校長先生（男性）

＊　JICA　学校菜園プロジェクト実施校。ンドウェドウェ地域はイナンダよりさらに奥に入った、周りに産業らしきものが全くない遠隔地。緑豊かな丘に民家が点在する。

＊　菜園では、イモ類（日本の里芋やサツマイモに似ている）、赤カブ、キャベツ、チリなどを育てている。科学のラデベ先生が「自然科学」の授業で、生徒達に菜園を教えている。「生徒達は男子も女子も菜園の授業が大好きだよ。」

＊　農業指導員のエルトンは、畑で何か問題がないか調べ先生たちにアドバイスをしていた。「モグラが地下にいるので、キャベツを荒らさないか心配だ」と校長先生。

＊　生徒達のほとんどが収入を祖母の年金（1ヶ月約750ランド＝11250円）に頼る貧困家庭から来ている。一時間以上歩いてくる生徒たちもいる（ンゴベセ校長先生からの情報）。

●　マゴンゴロ小学校　ンドウェドウェ地域　グレードR～4　430名　ンボナンビ校長先生（女性）

＊　図書室のある学校。国内のファンドを獲得、先生達で作った。しっかりした本棚だが、本が圧倒的に少ない。

＊　全ての授業で英語を使用。ズールー語の絵本は欲しいかとの問いに「がらんとした本棚をごらんなさいよ。どんな本でも欲しいわ。」とンボナンビ校長先生は笑う。英語とズールー語では、やはり英語の本の方がいいとのこと。「政

府は母語教育の重要性を強調するけど、将来生徒達が職を得るには、英語をマスターすることがとても重要なの。」

● ズバネ小学校 ンドウェドウェ地域 グレードR～4 181 名 シママネ校長先生（女性）

＊ JICA 菜園プロジェクト実施校。キャベツ、ピーマン、人参、ほうれん草などを育てている。 低学年（グレード R～グレード2）は、肥料となる牛糞を家や近所から学校に持ってくることでプロジェクトに参加している。メインの参加者はグレード3、4の生徒で、「生活指導」「自然科学」「生活科」の授業で、菜園に携わる。

＊ ズバネ小は4校のうち最も貧窮していた。各教室は物置小屋も兼ねている。黒板も古くボロボロだ。調理室と教室が兼用。各地に教室設備用のファンドを10年以上も申請し続けているが、なかなかもらえないとのこと。

＊ しかし、シママネ校長を始め先生達は教育熱心で生徒思いのようだ。チームワークもよく、強い信頼関係を築いているように伺えた。算数は得意だがなかなかズールー語が上達しない生徒のことを親身になって心配していた。

＊ 校長の自宅にランチに招かれた。「ぐりとぐら」を見せて、TAAA の計画（日本で古本を集め、ズールー語の翻訳シールを貼る）を説明。校長が翻訳してくれることになった。平林さんも喜ぶ。英語の重要性と同時にズールー語の重要性も熱っぽく語ってくれた。「母語をきちんとマスターしていないと、他の勉強ができなくなりますから。」

3 月 29 日（土）

● NGO シヤツツカ・コミュニティ・デベロプメント視察 サウスコースト ポートシェプストーン（ウムズンベよりさらに南西に位置する海岸沿いの都市）

＊ 「シヤツツカ」はエルトンの兄であるヴィンセント・マブンドラさんが代表を務める NGO で、コミュニティーカレッジとして HIV・エイズのカウンセリングや保健・看護を学ぶ短期コースを地元住民に提供。HIV 感染率が高く、看護士や保健師の需要が多い。コース修了者は、病院、ホスピス、リハビリセンターなどに就職し高い評価を得ているとのこと。

＊ ヴィンセントとエルトンは、リソースセンター設立の計画を立てている。ホスピスやヘルスケア・カレッジだけでなく、学校菜園プロジェクトやユース・クラブなど、総括的なコミュニティー開発プロジェクトを始める夢をもっている。

＊ リソースセンター建設予定地を訪問する。土地は酋長から買い取った。建設資金は、各地のファンドに申請中。旧ホームランドの地域とインフォーマルセトルメント（不法居住地）。ほとんどの住民は、1992 年に広がった ANC とインカタの政治紛争で故郷から逃れてきた犠牲者たちで、現在は不定期収入や祖母の年金で暮らしているとのこと。

＊ このプロジェクトに対し、将来的に TAAA が協力できるかどうか検討し可能性を探る（今後の課題）。

3 月 30 日（日）

● イナンダにあるゾクトゥーラ君（15 歳）一家を訪問

＊ ゾクトゥーラ君は、故ムルンギシ君の弟で、お母さんと妹の3人暮らし。草で覆われた細い道を通ると、泥を固めた小さな家。電気も水道もない。小さなベッド兼ソファがコの字に置かれているだけ。調理道具と大きなカボチャを入れた容器と、学校の用具を入れた段ボールが一つ。しゃれた飾り窓のガラスは壊れたまま。板を膝に置いて勉強する。お母さんは小枝に火を付けて鍋一つで料理をしていた。ゾクトゥーラ君は、「みてみて」と通信簿を取り出し見せてくれた。非常に優秀だ。皆で拍手する。絵も上手。「今度は本をもってきてね」と平林さんにリクエストしていた。

＊ でこぼこ道を行く。小丘の上に4個の小屋があった。ゾクトゥーラ君のお祖母さんの家だ。2人のおばあさん、幼い子ども数人、デリシーレちゃん、車いすの青年。時計にピアスとおしゃれなこの青年は、突然の外国人訪問客をもてなしてくれた。会話から、きちんとした教育を受けた人であることが分かる。「コンピューターを勉強していたけど、事故にあって、ここで暮らすことになってしまってね。That’s South Africa!」小屋から付けっぱなしのラジオが聞こえてくる。道が険しいこの地域では、車いすでの移動は非常に危険だ。落ち着いて堂々とした態度が印象的だった。

3 月 31 日（月） KZN 州教育省 ELITS とミーティング

＊ 移動図書館車プロジェクト担当者のマリアナから、バスについて以下の報告を受ける。

・3台運行中 イナンダ、ンバズワナ、フライヘイド ・3台 4月中に運行開始予定 ・3台 ナンバープレート取得中

送ったバスは8月前には使用される予定だが、6台についてはあくまでも運行予定なので、油断は許されない。

＊ マリアナと上司に、今後は連絡をもっとまめにしてもらうよう要請した。8 月に日本から訪問予定であることを伝える。

まとめ・感想

学校菜園プロジェクトに関しては、先生たちがとても熱心で、自然科学などの授業に効果的に取り入れている様だ。イースター休暇中で生徒達には会えなかったが、生徒も楽しく参加している様子が先生達の話からうかがえた。イナンダ、ンドウェドウェの環境は経済的に厳しく脆弱である。学校はとてつもなく大きな役割をはたしている。ゾクトゥーラ君の場合、家や周りに教育リソースがなくても、学校に行けば、本が読めてコンピューターも使える。給食で栄養もとれる。一日のメインの食事が給食という生徒たちも多いのだろう。菜園プロジェクト実施校の生徒達は、収穫された野菜をたっぷり食べていってほしい。私たち海外 NGO がコミュニティー開発を支援する場合、学校をエンパワーすることが、問題が少なく公平で効果的だと思った。

KZN教育省のバス6台が近々運行開始予定との報告は、嬉しいサプライズだった。それぞれ教育リソースの乏しい遠隔値域を走る予定なので、効果的に活用され、教育環境を少しでも改善する助けになってほしい。

TAAAと私

第８回　（1995～1996 年）

野田千香子

ボランティア貯金助成金を受ける

1995 年から 1996 年にかけて、TAAAの活動は、大きく進展し、忙しさも増してきた。1995 年 7 月～1996 年 6 月末に、郵政省国際ボランティア貯金助成金、約 460 万円が貰えた。1995 年度の決算書によれば、寄付金は 157 万円、埼玉県助成金が 54 万円であったから、ボ貯助成金が大きな役目を果たしたことが分かる。

1996 年 5 月には、久我祐子さんと私が南アの3州を訪ねている。そして 11 月にも再度、古我さんを交えて 3 人で訪問している。ジョハネスブルグとケープタウンとダーバンの 3 箇所を訪ねるのは、それぞれ南ア国内便で 1 時間半かかる大旅行である。ケープタウンを訪問したのは、移動図書館車を送る計画を持ち込むためのリサーチを目的としていた。

果樹園の町セレスに移動図書館を送ろうか

ケープタウンのイギリス風の美しい中心街、それを取り巻く高級住宅地、別荘地から少し外れた周辺には、カエリチャ、ランガ、クロスロードなどの黒人居住区（タウンシップ）が隣接し、低い掘っ立て小屋がどこまでもぎっしり連なっていた。

私たちは、タウンシップを出て、果樹園とジュースで有名なセレスの町に向かった。常々、英語の本を送ってきた現地のNGOマシフンディスがセレスの農園地帯に移動図書館車を巡回させたいと考えていたのである。

真っ暗な山中で車がパンク、立ち往生

理事のギヨセ氏その他数人と午後遅く、ケープタウンを出発、いくつもの岩山を越えて進む。いつしか、あたりは夕闇に包まれた。人家もない真っ暗な山中で急に車がストップ。パンクだという。

だれかの車を止めてライトに照らしてもらわないと、懐中電灯を忘れたので、タイヤ交換ができない、と言う。若い黒人の運転手さんがついているし、ギヨセさんは元アパルトヘイトの屈強な闘士である。われ鐘のような大声で常に「ワッハッハハ」と冗談を言い続けているから、私たちに恐さはなかった。10 分に 1 台くらい通る車の前に手を出して頼んでも、止まる方も山賊かと恐いに違いない。どの車も素通りだ。「祐子を提供して、止まってもらおうか、ハッハッハ」ギヨセさんの冗談も極端だった。

朝まで、ダメかなと思っていた時、すっと 1 台の乗用車が止まり、「どうしたのですか」と聞いてくれた。アフリカーナの農園主らしい父子だった。彼らは自分たちの車のライトを向けて我々の窮状を救ってくれた。数年前までギヨセさんたちと対立していたはずの田舎のアフリカーナの人たちだ。親切なアフリカーナに会って嬉しかった。

農園の子どもたちは学校に行っていなかった

セレスに無事に着き、優雅で田園的なホテルで、地元の農園主たちや町会議員などと夕食を取りながら、町が移動図書館車を走らせるという夢のような企画を話し合って乾杯した。後日談になるが、その年に送った移動図書館車は、NGO マシフンディスの財政難その他によりなかなか運行できず、結局、西ケープ州に移譲し、別の地域で、今は有効に運行されている。

翌日、地元の校長先生と一緒に、地平線まで続く果樹園を車で奥へ進んで行った。丘陵地帯の一角に小さな家が数軒。洗濯物が干されている。車が止まると、たちまち久我さんも私も 2～3 歳から学齢期の 10 数人の子ども達に囲まれた。校長先生が「おー、・・・君、この頃、学校に来ないねえ～」「行きたいけど、車の便がなくって」と答えていたのは、15 歳（10 歳位にしか見えなかった）の少年。将来は警官になりたい、と言っていたけれど、こんな何もない田舎で毎日、小さい子と遊んでいたのでは、心もとない。小さい子たちは皆、鼻を垂れて体も華奢で栄養が偏っているのかな、と心配になった。このあたりの農園労働者は、忙しい収穫期だけの季節労働に雇われ、他の季節はほとんど出稼ぎか、失業状態にあるそうだ。

こんな地域に移動図書館車が走り、その他の教育条件も少しずつ改善していくことが切望された。結局、先にも書いたように、この地には移動図書館車は走らなかったけれど、ここから、数 100 キロ離れた西ケープ州の北部、ヴレデンタールで別の車が走っている。そこはワインの生産地で同じように葡萄の収穫期だけ貧しい季節労働者が仕事にありつく地域であった。移動図書館車が必要なところでも、諸条件がすべて整わないと、どこでも運行できると言うわけにはいかない。　（つづく）

「学校に行きたい人？」「はーい」と手を上げる子供たち

学習院高等科で TAAA の活動紹介

米山　周作（TAAA 会員）

1 月 23 日（水）の 5･6 校時、高校 3 年生の地理選択者 20 名に対して、「国際協力概論と海外視察報告」と題したプレゼンテーションを行いました。同僚の TAAA 会員、岩垂雅子教諭（地理担当）の計らいでゲスト・スピーカーとして招かれたものです。

国際協力には、主に「政府」、「国際機関」、「NGO」の 3 つのアクターがあると説明を行った上で、NGO の活動事例として、南アで活動する TAAA、SOMOHO、南部アフリカの教育を支える会の紹介を行いました。30 分程度、パワーポイント上で写真を見せながらの説明に、生徒達が食い入るように見入っていました。

本校では、一昨年、昨年と、学校祭で上げられた収益金を TAAA に寄付させていただいており、一昨年の収益金は、ダーバン近郊のマンドシ小学校に図書室開設資金として贈られました。平林さんを通して送られたマンドシ小学校の図書室の写真は、特に強い印象を与えたようです。以下、プレゼンテーション後の生徒の感想です。「学校祭の実行委員としての仕事が、南アで図書室の設置にまで繋がったのは嬉しい」、「海外協力の活動に、少しだけだが関われたのは嬉しい」、「話を聞くだけでも勉強になるが、実際に関われるのが一番いい」、「ボーイスカウトや生徒会で募金を集めて寄付したことはあるが、実際に何に使われているのかが分からなかった。自分達のお金が何に変わったのかを見られて良かった」等。

平成 20 年度には、「国際理解・国際協力入門」という授業を、高校 2 年生 15 名を対象に通年で開講します。平林さんのご帰国に合わせて、野田さんと平林さんを本校にお招きし、TAAA の菜園活動等についてもさらにお話しいただきたいと考えております。本校の国際理解教育の実践に、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<生徒に紹介した写真>

アジア・アフリカと共に歩む会

2007年度　決算書

会計期間：2007年4月1日～2008年3月31日

Ⅰ：一般会計　収入の部

寄付金		1,800,788
会費	1．会費	138,000
	2．賛助会費	40,000
ムルンギシ基金		8,400
南ア事務所前期未清算金戻し入れ		73,324
販売収入		2,900
受取利息		4,676
委託事業収入		287,000
合計		2,355,088

支出の部

図書館車関係費		665,600
図書関係費		312,259
通信費		127,701
事務費		111,110
交通費		30,760
印刷費		83,300
水道光熱費		10,472
南ア事務所活動費		2,157,500
主な内訳		
（ムルンギシ基金の一部を寄贈　101,200円）		
（本棚を19校に設置　470,022円）		
（本引取費用　255,731円）		
（JICA事業TAAA負担分　507,194円）		
現地視察費		371,820
現地NGO支援		
	ELET支援金	345,420
	ズアール図書館車費用	178,400
為替差損		86,292
合計		4,480,634

Ⅱ：収支決算書

	前期繰越金	4,439,562	
＋	一般会計収入	2,355,088	
	一般会計支出	4,480,634	
－	次期繰越金	2,314,016	（南ア事務所次期繰越金：360,089円を含む）
		0	

上記の通り報告いたします。

2008.4.13

会計：　西村裕子

会計監査：　下谷房道

◆　主な活動（2008 年 1 月 16 日～2008 年 5 月 15 日）　*下線は南アにおける活動*

1/16 会報用住所ラベル作成　　西村裕子
1/18　ELET にてミーティング　　平林薫
1/19 会議　　浅見克則　　野田千香子
1/21・22　JICA プレトリアオフィスへ出張　平林
1/21～2/1　会報 46 号編集　　野田　　西村
1/23　ELET にてミーティング　　平林
1/24・25　ELET にて本の仕分け作業　　平林
1/27 梱包作業と会議　　野田　浅見　佐々木香世子　佐々木香帆　北爪健一　西村　渡辺英通　下谷房道　浦和学院高校より斎藤駿さん　杉田裕一郎さん
1/30 南アへ送金（JICA 分、TAAA 活動費）　　野田
1/30 会報郵送準備　　大久保ふみ　野田
1/31 キャッチフレーズとりまとめ　　久我祐子
2/1　ELET にて本の仕分け作業　　平林
2/6　ELET にて本の仕分け作業　　平林
2/6 JICA 担当者実務会議　　野田
2/7　学校菜園プロジェクト教師研修　　平林
2/10 会報 HP へ掲載　　近藤信幸
2/11　ELET 作業にて本の仕分け　　平林
2/12　ンドウェドウェ学校訪問　　平林
2/13 会報発送作業と郵送　　佐々木
2/14 ダンボール 200 個購入　　浅見
2/15 JICA2008 打ち合わせ会議　　久我　　野田
2/17 梱包作業とイベント準備　　西村　野田　浅見　北爪　関根章博　渡辺　亀森将博さん　浦和学院高校より我妻柚之さん、白石知之さん、笹川貴弘さん、吉川夕貴さん、佐藤隆平さんが参加
2/21・22　ンドウェドウェ学校訪問　　平林
2/23 （株）ファンタジスタ KEL4 周年記念に TAAA 出展　関根　渡辺
2/24 協議　　関根　　野田
2/25　ELET にて本の仕分け作業　　平林
2/26　SOMOHO へ本の発送　　平林
2/27　ンドウェドウェ学校訪問　　平林
2/27 輸出抹消登録証　運輸支局へ　　野田
3/3～5　リンポポ州 JVC プロジェクト視察　　平林
3/6 インターナショナルスクール名簿作成　　西村
3/8 根本神父を偲ぶ会　　野田
3/10　ELET にてミーティング　　平林
3/11・13・17・18　ンドウェドウェ学校訪問　平林
3/11～14 埼玉大学付属同窓会へ出展　　野田
3/18 インターナショナルスクール住所ラベル　西村
3/19 クリスチャンアカデミーインターナショナルスクールへ本引取り 45 個　　浅見
3/23 作業とミーティング　北爪　野田　下谷　浅見　浦和学院高校より菊地保奈美さん、坂本葵さん、西田南歩さんが参加
3/25　ELET にてミーティング　　平林
3/25 インターナショナルスクールへ本依頼　　野田
4/1 JICA 草の根技術協力支援型事業 2 年目契約成る
3/26～4/2 南アフリカ訪問 ELET・学校・州教育省などで協議。生徒の家を訪問。　　平林薫 野田 久我
4/2 図書館車陸送準備（エンジンチェックなど）浅見
4/5 TAAA のブログに掲載　野田
4/7・10　ELET にてミーティング　　平林
4/13 南ア帰国報告会　　久我と野田が報告　浅見　下谷　丸岡晶　西村　佐々木　渡辺　ジャーナリスト岡崎務さんが参加
4/14・17・22・23　ンドウェドウェ学校訪問　平林
4/15「ひろしま祈りの石助成金」報告提出　野田
4/7 JICA 担当者とミーティング　久我　野田
4/20 高校へ本依頼の準備　佐々木
4/22 アフリカン・フェスタ２００８説明会　　米山周作　山下八千穂
4/22 本を作業場へ運ぶ　渡辺　野田
4/23 HP 更新　武山理絵
4/25～5/5 決算書作成　西村　平林　野田　武山
4/29　ELET にてミーティング　　平林
4/30　学校菜園プロジェクト教師研修　　平林
4/30（株）商船三井　元副社長柴山剛介氏葬儀　野田
5/2 本を作業場へ運ぶ　渡辺　野田
5/4～5 野尻湖へ本引取り 30 箱　　浅見
5/5・6　ンドウェドウェ学校訪問　　平林
5/7　ELET にてミーティング　　平林
5/7 南ア ELET へ送金　　野田
5/7 アフリカン・フェスタ用レジメ　　久我
5/10 助成金申請準備　　関根
5/13 TAAA 活動報告会（7/6）案内文作成　　丸岡
5/13　ンドウェドウェ学校訪問　　平林
5/14 住所ラベルと高校の住所ラベル作成　　西村
5/15 アフリカン・フェスタ準備　　野田

ルイボスティのご紹介

南アフリカの西ケープ州だけに取れる健康茶ルイボスティをご購入いただきますと、売上の一部が TAAA に寄付されます。ノンカフェインですので、赤ちゃんから、高齢の方まで、召し上がっていただけます。
1箱　80 パック　　2000 円（送料一律 500 円）
（5 箱以上　送料無料）
1パックでヤカン一杯のお茶が飲めます。
お申込みは、P12　のTAAA連絡先へ
ルイボスティに同封する振込用紙で後からご送金ください。